

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本県熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化教養専門課程	ファッションデザイン科 クリエイティブ専攻コース		平成14(2002)年度	-	平成27(2015)年度		
学科の目的	ファッションにとどまらず、ライフスタイルまでを提案できる幅広い視野を持った人材を育成し、業界へ送り出すことを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	色彩検定、ファッションビジネス能力検定、パターンマーキング技術検定							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		71 単位		25 単位	46 単位	0 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
50 人	21 人	0 人		0 %	19 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		6 人					
	■就職希望者数(D)		6 人					
	■就職者数(E)		6 人					
	■地元就職者数(F)		4 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		67 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和 7 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無					
	※有の場合、例えば以下について任意記載							
評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.kumamoto-design.ac.jp							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		0 単位時間					
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位時間				
		うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間				
		うち必修授業時数		単位時間				
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位時間				
		うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間				
		(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間				
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数		71 単位					
		うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位				
		うち企業等と連携した演習の単位数		1 単位				
		うち必修単位数		71 単位				
		うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位				
		うち企業等と連携した必修の演習の単位数		1 単位				
		(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位				
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを連算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3 人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2 人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人			
	計				5 人			
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数				2 人			

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。

教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、次回の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
古 庄 貴敏	株式会社古庄本店代表取締役社長・くまもとファッション協会会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
児玉 守	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
松本 雪	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 副教務部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
平野 恵子	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務ファッションデザイン分野	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (3月、9月)

(開催日時(実績))

第1回 令和7年9月2日 10:00～11:00

第2回 令和8年3月16日 14:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

第一回目の会議では、令和7年度前期の学科カリキュラム、特にアパレル演習やスタイリングワークの実施報告に基づき、授業や実習の効果を上げるための意見交換を行った。さらに、入学者のアンケート結果をもとに考察し、今後の広報面に対する意見交換を行った。特に授業を担当する講師についてのアドバイスをもらい、単発の授業から依頼するなどのスタートを考えるきっかけにもなった。

第二回目の会議では令和7年度の実施内容を報告した。特に卒業制作の取り組みにおいて、ポップアップショップやファッションショーについてのご意見や今後の活動についても助言をいただいた。また、就職先として見込みのある企業を紹介していただき、学生の視野を広げるきっかけにもつながった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

ファッションデザインに関連する業界における実践的な技術や知識を有する人材を育てることを目的とし、海外アパレル企業での実務経験やブランド運営ノウハウを持つ教員と連携のもと、授業内容や指導体制の十分な検討を行ったうえで、最新の業界トレンドや現場における企画・商品開発プロセスを重視した授業展開を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
デザインワーク	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	海外アパレル企業や自ブランドでの実務経験・ブランド運営実績を持つ教員が、現場での知見や実例を交えながら、トレンド分析に基づく商品企画、コンセプトワーク、コンペ応募に向けた発想力や表現手法について講義・指導する。	ROUET ROMIMAYA

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的にを行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質（知識、技術、技能）が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名：	FaW TOKYO（ファッション ワールド 東京）セミナー D2Cから共創へ ― ファンとつくるブランド経営のリアル	連携企業等：	RX Japan 株式会社 yutori 代表・片石貴展氏
期間：	令和7年10月1日（水）14:30-15:15	対象：	アパレル業界
内容	yutoriの成長戦略セミナーでは、アパレル市場で急成長を続ける同社の独自戦略が語られた。主なポイントは、SNSを「事業装置」として活用したマーケティング、データに基づく迅速かつ合理的なブランド撤退・継続の判断基準、そしてZ世代などの若い層を熱狂させる多数のニッチブランドを無駄なく創出する秘訣。最年少上場を果たした実績から、令和の時代における新しいブランド運営のあり方が示された。		
研修名：	ファッションDX・AIサミット2026	連携企業等：	織研新聞社
期間：	2026/03/18(水) 13:00 - 18:15	対象：	アパレル業界
内容	ファッションDX・AIサミット2026では、アパレル・小売業界の最前線を行く企業が登壇。主なテーマは、生成AIを活用した業務効率化や、最新のDXソリューションによるデータ統合、さらに越境ECでの課題解決策など。各社が具体的な成功事例やシステム導入のノウハウを解説し、業界が目指すべきデジタル変革の方向性が示された。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名：	未来の専修学校をつくる～教員研修と卒業生調査のヒント～	連携企業等：	株式会社三菱総合研究所
期間：	令和7年2月18日（火）16時～18時	対象：	専門学校教職員等
内容	教職員とともに成長する学校づくり、教職員への支援のあり方、卒業生調査の活用など		
研修名：	教育目標の達成に向けた『入学前』からの指導体制づくり	連携企業等：	株式会社進研アド
期間：	令和7年8月26日（火）15時～16時	対象：	学校関係者等
内容	近年の大学・短大・専門学校進学者の学力や学習習慣、進学意識について分析		
研修名：	「教職員のための教務/校務効率化およびソフトウェア開発における生成 AI の活用」	連携企業等：	全国専門学校教育研究会
期間：	令和7年12月24日（水）9:00～18:00	対象：	専門学校教員
内容	午前中は教務・校務の効率化につながる生成AI、特にLLMやNotebookLMの基礎と教材・資料作成演習を行い、午後はAIエージェントを用いた最新の開発手法「Vibe Coding」についての実習を行った。		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	FaW TOKYO (ファッション ワールド 東京) セミナー	連携企業等:	RX Japan 株式会社
期間:	令和8年10月7日(水)	対象:	アパレル業界
内容	東京ビッグサイトで開催されるFaw TOKYO内のセミナーを受講予定。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	組織が動くとき、チームがworkするとき—何が組織を動かしているのか	連携企業等:	RX Japan
期間:	令和8年5月13日(水) 12:00～13:00	対象:	一般・企業・学校等
内容	第17回EDIX東京2026／「組織が動く」「チームがworkする」とはどのような状態なのかを手がかりに、日々の関わりや意思決定が組織やチームにどのような影響を与えているのか		

研修名:	次期学習指導要領の方向性と教育DX	連携企業等:	RX Japan
期間:	令和8年5月15日(金) 12:00～13:00	対象:	一般・企業・学校等
内容	第17回EDIX東京2026／中央教育審議会における次期教育課程の議論の方向性と 教育のデジタル化がどのように関わるかについて、講演時点での最新の動向を分かりやすく解説		

研修名:	中途退学予防と学生支援 ～AI・データから早期に読み解く予兆と具体的な支援策～	連携企業等:	一般社団法人 実践行動学研究所
期間:	令和8年11月17日(火) 15:00～17:00	対象:	各種学校・教育機関
内容	出席・成績データ等の可視化・統計分析による中途退学リスク早期発見の仕組みと、現場で教職員が学生の行動変容を促す具体的な支援アプローチについて		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学生支援については概ね良い評価を受けた。学生対応は主に担任が窓口となり、当事者から十分にヒアリングし、本人の意思を確認して対応している。内容に応じて他分掌とも連絡を密にするよう注力しており、今までのとこと大きな問題となることはなく機能している。教育の内部質保証については、職業実践専門課程の認定に伴い順次対応を行っている。今後、情報管理システムを導入し、一元管理を行うとともに、管理体制を階層化し、責任の所在を明確にして管理を徹底していきたい。

(4)学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
松本 美貴	在校生保護者	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・)本報誌等の刊行物・その他())
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和8年7月1日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2)各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3)教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4)キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5)様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6)学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7)学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8)学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9)学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法

(ホームページ・)本報誌等の刊行物・その他())
URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>
公表時期: 令和8年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 ファッションデザイン科クリエイティブ専攻コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			素材学	ファッションの材料となる素材の基本的性質を知ると共に、多くの生地に触れてその感覚や使い方を身につける。その特性とそれを活かす方法を理解することで実践的に役立て、また、取り扱いを理解することで、より専門的知識を持ったデザイナーやアドバイザーを目指す。市場で使われている生地の名前や、そのアイテムとの関連なども学修する。	1年		2	○			○		○		
2	○			服飾史	西洋服飾の歴史を学ぶ。歴史上でどのような文化のもと、どのように美意識が変化していくのか、またそれにより人々のファッションに対する考えやそのデザインがどのように影響を受けていくのかを学修する。過去の時代背景とファッションの関連を学ぶことにより、今後の流行を予測する力を身につける。	1年		2	○			○		○		
3	○			パターンメイキング	採寸から基本アイテムの製図まで、パターンメイキングの基礎を指導する。体と服とゆとりの関係を理解し、演習を通して平面から立体を作り出す構成感覚を身につけ、工業用パターンの作成までを行う。	1年		4		○		○			○	
4	○			ソーイング	アパレル生産の基礎を指導する。職業用ミシン、工業用ミシン、ロックミシン、工業用アイロン等の操作方法を身に付け、スカート、パンツ、シャツ、ジャケット等の基本的なアイテムの構成を理解し、演習を通して既製服の縫製技術を身に付ける。	1年		4		○		○		○		
5	○			ベーシックデザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1年		2	△	○		○		○		

6	○			総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的実例を専門家の考え方や手法を理解する。	1 年前期		1	○			○			○	
7	○			デザイン画	人体のバランスの取り方から、イメージしたデザインを表現するための技術までを基礎から指導する。	1 年		2		○		○				○
8	○			ファッションビジネス論Ⅰ	ファッション産業の仕組みや特性について解説する。 産業構造、ビジネスの特性と変遷、社会と消費者の変化等、業界全体の現状を把握し、業態別ビジネスの特性、MD基礎知識とブランド展開についての基礎的な知識を身に付ける。	1 年		5	○			○			○	
9	○			スタイリングコーディネート	ファッションアイテムに関する基礎知識とスタイリングコーディネートの方法を指導、また、スタイリングコーディネートに必要なヘアアレンジ、メイク方法、ポージングやウォーキングの指導をする。アイテム名、ディテール、シルエット、ラインなど、商品に関する基礎知識を身につけ、スタイリングコーディネートでの応用力を身につける。	1 年		1	△	○		○			△	○
10	○			ファッションマーケティングⅠ	プランニングの基礎となるターゲット企画や情報分析等を指導する。クラスター分析を行いイメージマップの作成とライフスタイルをはじめとする周辺情報を収集・分析する力を身につける。市場調査の方法を身に付け、トレンド情報やブランド情報を収集・分析する能力を身に付ける。	1 年		2	○	△		○			○	
11	○			ファッションデザイン論	ファッションデザインを学ぶうえで必要となる基本的な知識を学修する。ファッションデザインとは何か、また、その考えをどのように表現していくのか、そこに必要な知識・技術を身につける。デザインプロセスや造形の基本テクニック、などを学び、他の科目で実践的に身につけられる入口になるよう連携を図る。	1 年前期		1	○			○			○	

12	○			販売概論	ファッション販売の概要とショップスタッフの対応力、快適な売場運営について指導する。 今、実店舗に求められるショップスタッフの役割を理解し、お客様の購買行動と心理プロセスに沿った対応力を修得する。	1年		1	○	△		○	○		
13	○			修了制作	オリジナルデザインの提案を指導する。1年間の集大成としてマーケティングリサーチからコンセプトワーク、デザイン、パターン、ソーイング、企画書作成、プレゼンテーションまでを一貫して行う。	1年後期		6		○		○	○		
14	○			ビジネスコミュニケーション	百貨店において、接客サービスに従事し、接客指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感もてるマナーやコミュニケーション力を修得する。	1年		1	○	△		○	○		
15	○			社会研究Ⅰ	働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方と就職活動の具体的方法を学ぶ。	1年後期		1	○			○	○		
16	○			クリエイティブパターンⅠ	パターンメイキング技術の応用として、2年次で制作する総裏仕立てのジャケット又はコートの作図を指導する。演習を通して素材やデザインに合わせた作図の技術を身に付ける	1年後期		1		○		○		○	
17	○			社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2年前期		1	○			○	○		
18	○			ファッションマーケティングⅡ	アパレル業界におけるマーケティング、及びプランニングの流れを解説し、実践する。 マーケットリサーチ、ロジカルシンキングを通し、市場の流れ、業界動向、流行を読み取る力を修得する。	2年前期		1	△	○		○	○		
19	○			グラフィックデザイン	IllustratorとPhotoshopのアプリケーションソフトを使ってポスター、リーフレット、カタログ制作やWebサイト制作など広報ツール制作について指導する。	2年		3		○		○	○		

20	○			品質管理	アパレルに求められる品質と消費性能について理解し、品質基準、品質管理、品質評価、洗濯などの取り扱い方法や品質表示について学ぶ。実践的なしみ抜きなども取り入れ、現場で役立つ品質にかかわる知識を身につける。また、お客様に伝えるべき品質と取り扱いを理解し、その伝え方やクレーム対策についても学ぶ。	2 年 前 期		1	○			○		○		
21	○			SNSコミュニケーション	ファッションの現場で多く使用されているInstagramに重点を置き、演習を交えながら情報の発信方法やファン育成のノウハウといったセルフブランディングのための基礎スキルを指導し、就職後、即戦力となるような人材育成を行う。	2 年 後 期		1	△	○		○			○	
22	○			WEBビジネス	WEBビジネスや、EC(Electronic Commerce電子商取引)において、知っておくべき基礎知識と、一個人でもECの開設、運用ができる力を養い、ネット市場とネットショップ運営に関する授業を行う	2 年 後 期		1	○			○			○	
23	○			デザインワーク	デザイン画の基礎をもとに、表現技法の応用力を高める。また、デザイン発想やコンペ応募、トレンドを抑えた商品企画やコンセプトワークをもとに、企画力と発想力を鍛え、その表現手法を指導する。	2 年 前 期		1		○		○			○	○
24	○			ファッションビジネス論Ⅱ	ファッションビジネスの総合的、かつ高度な理解を目的とた、実務的な応用理論を解説する。国内のみならず、世界のファッションビジネスの変遷と現状、産業構造やビジネスシステムについて理解を深める。	2 年		6	○			○		○		
25	○			アパレル研究	実際の店舗での接客・販売技術を指導する。実際の店舗においてブランドや商品の知識を身に付ける。また、アパレル販売の中で基本となる接客技術をはじめ、サイジングやお直し、ディスプレイ、ロールプレイングなどを行い、店頭でのインターンシップを通してそれらの技術を実践的に身に付ける。	2 年 前 期		1	○				○		○	
26	○			スタイリングワーク	それぞれのテイストに合わせたスタイリング技術を指導する。また、Instagramファッションアカウントを運用し、ファッションページの制作を指導する。	2 年 前 期		1		○		○			○	

27	○		卒業制作	オリジナルブランドのプロデュースを指導する。グループワークにより、マーケティングリサーチからコンセプトワーク、デザイン、パターン、ソーイング、コーディネート、広報、販売展開までを一貫して行う。	2年	8	○	○	○										
28	○		ブランドプロデュース	商品企画の基本的な流れを学び、既存のブランド研究をもとに、市場やターゲットにマッチした商品提案力を身につける。ファッションマーケティングの授業と連動させ、市場調査から導いたコンセプトに合わせた提案ができる力を修得する。	2年後期	2	○	○	○										
29	○		ドレーピング	身体の立体的構造を理解し、ドレーピングの基本的な知識と技術を習得することで、よりデザイン画に近い立体を作り出す技術を身につける。パターンメイキングでの平面製図と連動させながら、よりパターンの仕組みと構造を理解するとともに、ドレーピングだからこそできる立体表現力を身につける。	2年	2	○	○	○										
30	○		クリエイティブパターンⅡ	パターンの応用としてアイテム、デザイン、素材に応じたファーストパターンから工業用パターン作成法を指導する。パターンメイキング検定2級の内容を取り入れ理解を深めていくと共に、リアルクローズに必要なパターン技術を修得していく。	2年	3	○	○	○										
31	○		クリエイティブソーイング	業界で即応できる生産技術を指導する。総裏テーラードジャケット又はコートの構成を理解し、演習を通して素材特性を活かした縫製技術を身につける	2年	3	○	○	○										
合計					31 科目	71 単位（単位時間）													

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	・当該年次の履修科目すべての単位を修得していること ・当該年次の学費等校納金を全納していること ・その他、学修及び生活態度が良好であること	1 学年の学期区分	2 期
	履修方法： 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。	1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
熊本デザイン専門学校		平成5年12月24日		校長 内藤謙一		〒 862-0973 (住所) 熊本県熊本市中央区大江本町2-5 (電話) 096-364-8500		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人未来創造学園		平成22年3月2日		理事長 吉山昌利		〒 862-0976 (住所) 熊本県熊本市中央区九品寺2丁目2-38 (電話) 096-362-5656		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化教養専門課程	ファッションデザイン科 ファッションビジネス専攻コース		平成14(2002)年度	-	平成27(2015)年度		
学科の目的	ファッションにとどまらず、ライフスタイルまでを提案できる幅広い視野を持った人材を育成し、業界へ送り出すことを目的とする。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	色彩検定、ファッションビジネス能力検定、パターンメーキング技術検定							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
			71 単位	30 単位	41 単位	0 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)	中退率			
50 人	21 人	0 人		0 %	19 %			
就職等の状況	■卒業者数(C)		6 人					
	■就職希望者数(D)		6 人					
	■就職者数(E)		6 人					
	■地元就職者数(F)		4 人					
	■就職率(E/D)		100 %					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		67 %					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100 %					
	■進学者数		0 人					
	■その他							
	(令和 7 年度卒業者に関する令和 7 年 5 月 1 日時点の情報)							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:		無					
	※有の場合、例えば以下について任意記載							
当該学科のホームページURL	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL			
	https://www.kumamoto-design.ac.jp							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)							
	総授業時数		0 単位時間					
	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した演習の授業時数		単位時間					
	うち必修授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位時間					
	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位時間					
	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位時間					
	(B: 単位数による算定)							
	総単位数		71 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		1 単位						
うち必修単位数		71 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		1 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		3 人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		2 人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0 人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0 人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		0 人					
	計		5 人					
	上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		2 人					

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
業界における人材の専門性に関する動向、地域の産業振興の方向性、必要な実務に関する知識や技能などを十分に把握・分析したうえで、当該専門課程の教育を施すためにふさわしいと考えられる授業科目の開設や、授業内容・方法の改善・工夫を行い、企業の要請を十分に活かし、実践的かつ専門的な職業教育を主体的に行うために、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
教育課程編成委員会委員は学校法人未来創造学園職員及び企業・団体役職者等の外部委員からなるものとし、互いの視点からの意見を積極的に交換・活用し、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付ける。
教育課程編成委員会は、各学科から示されたカリキュラム等の内容や実施状況について、業界において必要となる技術や知識を有する人材を育てる観点から十分な審議を行い、教育課程の編成や内容についての具体的な方策を講じ、意見表明を行う。その後、各学科において当該意見を反映した授業実施案を作成し、回目の教育課程編成委員会にて報告・審議・承認を受けたのち、学校長決裁を経て次年度教育課程が決定される。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和8年10月1日現在

名 前	所 属	任期	種別
古 庄 貴敏	株式会社古庄本店代表取締役社長・くまもとファッション協会会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	①
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	③
内藤 謙一	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 学校長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
児玉 守	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
松本 雪	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 副教務部長	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—
平野 恵子	学校法人未来創造学園 熊本デザイン専門学校 教務ファッションデザイン分野	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。
(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)
①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
②学会や学術機関等の有識者
③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期
(年間の開催数及び開催時期)
年2回 (3月、9月)

(開催日時(実績))
第1回 令和7年9月2日 10:00～11:00
第2回 令和8年3月16日 14:30～15:30

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況
※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。
第一回目の会議では、令和7年度前期の学科カリキュラム、特にアパレル演習やスタイリングワークの実施報告に基づき、授業や実習の効果を上げるための意見交換を行った。さらに、入学者のアンケート結果をもとに考察し、今後の広報面に対する意見交換を行った。特に授業を担当する講師についてのアドバイスをもらい、単発の授業から依頼するなどのスタートを考えるきっかけにもなった。
第二回目の会議では令和7年度の実施内容を報告した。特に卒業制作の取り組みにおいて、ポップアップショップやファッションショーについてのご意見や今後の活動についても助言をいただいた。また、就職先として見込みのある企業を紹介していただき、学生の視野を広げるきっかけにもつながった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針
ファッションデザインに関連する業界における実践的な技術や知識を有する人材を育てることを目的とし、海外アパレル企業での実務経験やブランド運営ノウハウを持つ教員と連携のもと、授業内容や指導体制の十分な検討を行ったうえで、最新の業界トレンドや現場における企画・商品開発プロセスを重視した授業展開を行うことを基本方針とする。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容
※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記
教育課程編成委員会等において出された意見を基に、事前に職業教育協定書により協定を締結した企業側講師と担当教員による綿密な打ち合わせを行い、授業内容や学修成果の評価方法を決定する。また、演習期間中は随時情報交換を行うことで、学修効果の向上を図るとともに、演習終了後には、企業側講師による学生の学修成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科 目 名	企業連携の方法	科 目 概 要	連 携 企 業 等
デザインワーク	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	海外アパレル企業や自ブランドでの実務経験・ブランド運営実績を持つ教員が、現場での知見や実例を交えながら、トレンド分析に基づく商品企画、コンセプトワーク、コンペ応募に向けた発想力や表現手法について講義・指導する。	ROUET ROMIMAYA

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記
「学校法人未来創造学園熊本デザイン専門学校教職員研修規程」に基づき、専攻分野に係わる教員の資質(知識、技術、技能)が何かを、関連する企業や関連団体等に広く意見を伺い、効果的な指導がなされるよう研修計画を立てて実施する。また、学級運営力の向上や教育法の習得等の研修にも併せて取り組んでいく。研修機会としては、関連する企業や関連団体等から招いた講師による学内研修や、各種団体が開催する学外研修が考えられる。

(2)研修等の実績

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	FaW TOKYO (ファッション ワールド 東京)セミナー D2Cから共創へー ファンとつくるブランド経営のリアル	連携企業等: RX Japan 株式会社yutori 代表・片石貴展氏
期間:	令和7年10月1日(水)14:30-15:15	対象: アパレル業界
内容	yutoriの成長戦略セミナーでは、アパレル市場で急成長を続ける同社の独自戦略が語られた。主なポイントは、SNSを「事業装置」として活用したマーケティング、データに基づく迅速かつ合理的なブランド撤退・継続の判断基準、そしてZ世代などの若い層を熱狂させる多数のニッチブランドを無駄なく創出する秘訣。最年少上場を果たした実績から、令和の時代における新しいブランド運営のあり方が示された。	
研修名:	ファッションDX・AIサミット2026	連携企業等: 織研新聞社
期間:	2026/03/18(水) 13:00 - 18:15	対象: アパレル業界
内容	ファッションDX・AIサミット2026では、アパレル・小売業界の最前線を行く企業が登壇。主なテーマは、生成AIを活用した業務効率化や、最新のDXソリューションによるデータ統合、さらに越境ECでの課題解決策など。各社が具体的な成功事例やシステム導入のノウハウを解説し、業界が目指すべきデジタル変革の方向性が示された。	

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	未来の専修学校をつくる～教員研修と卒業生調査のヒント～	連携企業等: 株式会社三菱総合研究所
期間:	令和7年2月18日(火)16時～18時	対象: 専門学校教職員等
内容	教職員とともに成長する学校づくり、教職員への支援のあり方、卒業生調査の活用など	
研修名:	教育目標の達成に向けた『入学前』からの指導体制づくり	連携企業等: 株式会社進研アド
期間:	令和7年8月26日(火)15時～16時	対象: 学校関係者等
内容	近年の大学・短大・専門学校進学者の学力や学習習慣、進学意識について分析	
研修名:	「教職員のための教務/校務効率化およびソフトウェア開発における生成 AI の活用」	連携企業等: 全国専門学校教育研究会
期間:	令和7年12月24日(水)9:00～18:00	対象: 専門学校教員
内容	午前は教務・校務の効率化につながる生成AI、特にLLMやNotebookLMの基礎と教材・資料作成演習を行い、午後はAIエージェントを用いた最新の開発手法「Vibe Coding」についての実習を行った。	

(3) 研修等の計画

①専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	FaW TOKYO (ファッション ワールド 東京) セミナー	連携企業等:	RX Japan 株式会社
期間:	令和8年10月7日(水)	対象:	アパレル業界
内容	東京ビッグサイトで開催されるFaw TOKYO内のセミナーを受講予定。		

②指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	組織が動くとき、チームがworkするとき—何が組織を動かしているのか	連携企業等:	RX Japan
期間:	令和8年5月13日(水) 12:00～13:00	対象:	一般・企業・学校等
内容	第17回EDIX東京2026/「組織が動く」「チームがworkする」とはどのような状態なのかを手がかりに、日々の関わりや意思決定が組織やチームにどのような影響を与えているのか		

研修名:	次期学習指導要領の方向性と教育DX	連携企業等:	RX Japan
期間:	令和8年5月15日(金) 12:00～13:00	対象:	一般・企業・学校等
内容	第17回EDIX東京2026/中央教育審議会における次期教育課程の議論の方向性と 教育のデジタル化がどのような関わりについて、講演時点での最新の動向を分かりやすく解説		

研修名:	中途退学予防と学生支援 ～AI・データから早期に読み解く予兆と具体的な支援策～	連携企業等:	一般社団法人 実践行動学研究所
期間:	令和8年11月17日(火)15:00～1700	対象:	各種学校・教育機関
内容	出席・成績データ等の可視化・統計分析による中途退学リスク早期発見の仕組みと、現場で教職員が学生の行動変容を促す具体的な支援アプローチについて		

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者評価は教職員で実施した自己評価を、企業・高等学校・保護者・卒業生等の学校関係者それぞれの視点から意見を伺い、お互いの理解を深めるためのものとする。また、その評価の過程において、自己評価の妥当性を検証するとともに、客観性・透明性をより高め、公共性の高い社会に寄与する学校を目指すことを基本方針とする。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	教育理念・目標
(2)学校運営	学校運営
(3)教育活動	教育活動
(4)学修成果	学修成果
(5)学生支援	学生支援
(6)教育環境	教育環境
(7)学生の受入れ募集	学生の受入れ募集
(8)財務	財務
(9)法令等の遵守	法令等の遵守
(10)社会貢献・地域貢献	
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学生支援については概ね良い評価を受けた。学生対応は主に担当が窓口となり、当事者から十分にヒアリングし、本人の意思を確認して対応している。内容に応じて他分掌とも連絡を密にするよう注力しており、今までのとこと大きな問題となることはなく機能している。

教育の内部質保証については、職業実践専門課程の認定に伴い順次対応を行っている。今後、情報管理システムを導入し、一元管理を行うとともに、管理体制を階層化し、責任の所在を明確にして管理を徹底していきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名 前	所 属	任期	種別
有田 満里子	有限会社有田 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
島村 徹	一般社団法人熊本県建築士事務所協会	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
田中 千秋	株式会社放送技研 代表取締役	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
古家 達也	株式会社フィールドワークス 代表取締役社長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	企業等委員
松本 美貴	在校生保護者	令和8年4月1日～令和9年3月31日(1年)	保護者委員
内村 友造	同窓会会長	令和7年4月1日～令和9年3月31日(2年)	卒業生委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和8年7月1日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

企業等の学校関係者と連携・協力を通じて、健全な学校運営と教職員の資質向上に取り組んでいくことを目的とするため、教育活動等の学校運営状況に関する情報を提供することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	ホームページ「学校案内」に掲載
(2) 各学科等の教育	ホームページ「学科紹介」に掲載
(3) 教職員	ホームページ「教員・職員紹介」に掲載
(4) キャリア教育・実践的職業教育	ホームページ「就職支援」に掲載
(5) 様々な教育活動・教育環境	ホームページ「学校生活」に掲載
(6) 学生の生活支援	ホームページ「学校生活」に掲載
(7) 学生納付金・修学支援	ホームページ「入学案内」及び募集要項に掲載
(8) 学校の財務	ホームページ「財務情報」に掲載
(9) 学校評価	ホームページ「学校関係者評価結果」に掲載
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ・広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://kumamoto-design.ac.jp/school/publishing>

公表時期: 令和8年7月1日

授業科目等の概要

(文化教養専門課程 ファッションデザイン科ファッションビジネス専攻コース)																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配 当 年 次 ・ 学 期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			素材学	ファッションの材料となる素材の基本的性質を知ると共に、多くの生地に触れてその感覚や使い方を身につける。その特性とそれを活かす方法を理解することで実践的に役立て、また、取り扱いを理解することで、より専門的知識を持ったデザイナーやアドバイザーを目指す。市場で使われている生地の名前や、そのアイテムとの関連なども学修する。	1年		2	○			○		○		
2	○			服飾史	西洋服飾の歴史を学ぶ。歴史上でどのような文化のもと、どのように美意識が変化していくのか、またそれにより人々のファッションに対する考えやそのデザインがどのように影響を受けていくのかを学修する。過去の時代背景とファッションの関連を学ぶことにより、今後の流行を予測する力を身につける。	1年		2	○			○		○		
3	○			パターンメイキング	採寸から基本アイテムの製図まで、パターンメイキングの基礎を指導する。体と服とゆとりの関係を理解し、演習を通して平面から立体を作り出す構成感覚を身につけ、工業用パターンの作成までを行う。	1年		4		○		○			○	
4	○			ソーイング	アパレル生産の基礎を指導する。職業用ミシン、工業用ミシン、ロックミシン、工業用アイロン等の操作方法を身に付け、スカート、パンツ、シャツ、ジャケット等の基本的なアイテムの構成を理解し、演習を通して既製服の縫製技術を身に付ける。	1年		4		○		○		○		
5	○			ベーシックデザイン	色彩検定に向けての学習と共に、色彩の基礎的な知識をアクリル絵の具による実技課題を通して、修得していく。色彩検定の基礎的な知識と職能的な知識を生かして、平面構成の図案の構成力、配色計画、アナログ技法の技術表現力を修得する。	1年		2	△	○		○		○		
6	○			総合デザイン論	多岐に渡るデザイン分野の各専門知識や技術を、各専門分野の講師陣からオムニバス形式により具体的実例を専門家の考え方や手法を理解する。	1年前期		1	○			○			○	
7	○			デザイン画	人体のバランスの取り方から、イメージしたデザインを表現するための技術までを基礎から指導する。	1年		2		○		○			○	

8	○			ファッション ビジネス論Ⅰ	ファッション産業の仕組みや特性について解説する。産業構造、ビジネスの特性と変遷、社会と消費者の変化等、業界全体の現状を把握し、業態別ビジネスの特性、MD基礎知識とブランド展開についての基礎的な知識を身に付ける。	1年		5	○				○		○		
9	○			スタイリング コーディネー ト	ファッションアイテムに関する基礎知識とスタイリングコーディネートの方法を指導、また、スタイリングコーディネートに必要なヘアアレンジ、メイク方法、ポージングやウォーキングの指導をする。アイテム名、ディテール、シルエット、ラインなど、商品に関する基礎知識を身につけ、スタイリングコーディネートでの応用力を身につける。	1年		1	△	○			○		△	○	
10	○			ファッション マーケティングⅠ	プランニングの基礎となるターゲット企画や情報分析等を指導する。クラスター分析を行いイメージマップの作成とライフスタイルをはじめとする周辺情報を収集・分析する力を身につける。市場調査の方法を身に付け、トレンド情報やブランド情報を収集・分析する能力を身に付ける。	1年		2	○	△			○		○		
11	○			ファッション デザイン論	ファッションデザインを学ぶうえで必要となる基本的な知識を学修する。ファッションデザインとは何か、また、その考えをどのように表現していくのか、そこに必要な知識・技術を身につける。デザインプロセスや造形の基本テクニック、などを学び、他の科目で実践的に身につけられる入口になるよう連携を図る。	1年前期		1	○				○		○		
12	○			販売概論	ファッション販売の概要とショップスタッフの対応力、快適な売場運営について指導する。今、実店舗に求められるショップスタッフの役割を理解し、お客様の購買行動と心理プロセスに沿った対応力を修得する。	1年		1	○	△			○		○		
13	○			修了制作	オリジナルデザインの提案を指導する。1年間の集大成としてマーケティングリサーチからコンセプトワーク、デザイン、パターン、ソーイング、企画書作成、プレゼンテーションまでを一貫して行う。	1年後期		6		○			○		○		
14	○			ビジネスコ ミュニケー ション	百貨店において、接客サービスに従事し、接客指導の実績のある教員が、社会人としての基礎力を指導する。第一印象から身だしなみ、正しい言葉遣いから、「話す」「聞く」等の表現を実践的に身に付け、公的な場面での好感もてるマナーやコミュニケーション力を修得する。	1年		1	○	△			○		○		
15	○			社会研究Ⅰ	働くことの意義、業界研究、自己分析を経て自己の社会的確立を目的とし、進路決定の基本となる考え方と就職活動の具体的方法を学ぶ。	1年後期		1	○				○		○		

16	○			セールステクニクⅠ	リアル店舗におけるファッション販売一連の流れに沿って、コンサルティングセールスのベースを指導する。 また、多様化するマーケットや購買チャネルの現状を理解し、デジタル時代に目指すべき販売員の要素を合わせて学修する。	1年後期		1	○	△		○			○	
17	○			社会研究Ⅱ	将来の職業への関心を更に深め、働く事の意義や構造について学ぶと同時に、社会におけるコミュニケーションのあり方を修得し、意欲的な人生設計への実現に向けた選択行動が取れるようになる事を目的とする。	2年前期		1	○			○			○	
18	○			ファッションマーケティングⅡ	アパレル業界におけるマーケティング、及びプランニングの流れを解説し、実践する。 マーケットリサーチ、ロジカルシンキングを通し、市場の流れ、業界動向、流行を読み取る力を修得する。	2年前期		1	△	○		○			○	
19	○			グラフィックデザイン	IllustratorとPhotoshopのアプリケーションソフトを使ってポスター、リーフレット、カタログ制作やWebサイト制作など広報ツール制作について指導する。	2年		3		○		○			○	
20	○			品質管理	アパレルに求められる品質と消費性能について理解し、品質基準、品質管理、品質評価、洗濯などの取り扱い方法や品質表示について学ぶ。実践的なしみ抜きなども取り入れ、現場で役立つ品質にかかわる知識を身につける。また、お客様に伝えるべき品質と取り扱いを理解し、その伝え方やクレーム対策についても学ぶ。	2年前期		1	○			○			○	
21	○			SNSコミュニケーション	ファッションの現場で多く使用されているInstagramに重点を置き、演習を交えながら情報の発信方法やファン育成のノウハウといったセルフブランディングのための基礎スキルを指導し、就職後、即戦力となれるような人材育成を行う。	2年後期		1	△	○		○				○
22	○			WEBビジネス	WEBビジネスや、EC(Electronic Commerce電子商取引)において、知っておくべき基礎知識と、一個人でもECの開設、運用ができる力を養い、ネット市場とネットショップ運営に関する授業を行う	2年後期		1	○			○				○

23	○			デザインワーク	デザイン画の基礎をもとに、表現技法の応用力を高める。また、デザイン発想やコンペ応募、トレンドを抑えた商品企画やコンセプトワークをもとに、企画力と発想力を鍛え、その表現手法を指導する。	2 年 前 期		1		○		○		○	○
24	○			ファッションビジネス論Ⅱ	ファッションビジネスの総合的、かつ高度な理解を目的とた、実務的な応用理論を解説する。国内のみならず、世界のファッションビジネスの変遷と現状、産業構造やビジネスシステムについて理解を深める。	2 年		6	○			○		○	
25	○			アパレル研究	実際の店舗での接客・販売技術を指導する。実際の店舗においてブランドや商品の知識を身に付ける。また、アパレル販売の中で基本となる接客技術をはじめ、サイジングやお直し、ディスプレイ、ロールプレイングなどを行い、店頭でのインターンシップを通してそれらの技術を実践的に身に付ける。	2 年 前 期		1	○			○		○	
26	○			スタイリングワーク	それぞれのテイストに合わせたスタイリング技術を指導する。また、Instagramファッションアカウントを運用し、ファッションページの制作を指導する。	2 年 前 期		1		○		○		○	
27	○			卒業制作	オリジナルブランドのプロデュースを指導する。グループワークにより、マーケティングリサーチからコンセプトワーク、デザイン、パターン、ソーイング、コーディネート、広報、販売展開までを一貫して行う。	2 年		8		○		○		○	
28	○			セールステクニクⅡ	多様化するマーケットや購買チャネルの中で、より高度な専門知識・技術・情報を提供し、商品提案を含め買い手の満足を得られる人材となるべく、実店舗における販売員の役割を解説、実務指導する。ロールプレイングを通し、情報のキャッチ力とコミュニケーションスキルの向上を図る。又、顧客管理の重要性、クレーム対応についての理解を深める。	2 年		3	△	○		○		○	
29	○			ショップマネジメント	ファッション小売店舗における運営、管理について指導する。 小売形態の特性を理解し、どのような目的で、どのように運営されるのか、又、店舗を効率的に・効果的に運営し、目的を達成する為のマネジメントのトータル的な考え方を修得する。	2 年		4	○	△		○		○	

30	○			ショッププロデュース	ショップ出店における一連の業務を指導する。 更に、ファッションEC業界の動向を学びながら、ネットビジネスの基礎知識と運営の仕組みを修得する。	2 年 後 期		3		○		○		○			
合計						30	科目	71 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件： ・当該年次の履修科目すべての単位を修得していること ・当該年次の学費等校納金を全納していること ・その他、学修及び生活態度が良好であること		1 学年の学期区分	2 期
履修方法： 学則に定める教育課程に基づき授業科目を履修し、学修の評価により科目を修得する。		1 学期の授業期間	15 週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。